

実践報告

生活の中の音や音楽とつなげる音楽科の授業づくり
—小学校第1学年、第3学年の実践を通して—

江頭 範朗* ・ 向井 千晶*

Creating music lessons that connect with sounds and music in daily life
-Through the practice of the first and third grades of elementary school-

Norio EGASHIRA, Chiaki MUKAI

I 概要

音楽科の学習指導において、音楽のよさや面白さや美しさを追究する児童の姿をめざし、生活や社会の中の音や音楽とつなげる指導の工夫、知覚と感受の関連付けのための工夫について研究している。特に小学校低学年・中学年において、生活や社会の中の音や音楽を教材化すること、生活や社会と関連付ける場面の設定について実践を重ねてきた。本実践報告は、小学校第1学年における生活の中の音や音楽を教材化した実践、小学校第3学年における生活や社会と関連付ける場面の設定を行った実践である。以下、研究の手立てを記し、実践の実際と手立てに関する考察を述べる。

柱1 生活や社会の中の音や音楽とつなげる指導の工夫

- ・生活や社会の中の音や音楽を教材化
- ・生活や社会と関連付ける場面の設定

柱2 知覚と感受の関連付けのための工夫

- ・音や音楽、心の動き、イメージを可視化
- ・試行錯誤しながら表現できる場の設定

II 実践

1. 実践①小学校第1学年（35名）、11月実践

題材名 「がっきとなかよし～ねいろをいかして～」

（1）題材について

本題材は、身近な打楽器そのものやそれらの音色への興味・関心を育てながら、音色の違いや音の様々な特徴を捉えて、表現の仕方を工夫できるようにすることがねらいである。前題材「みの まわりの おとに みみを すませよう」と関連した題材であり、生活の中にある音に注目し、音の面白さに気付く学習とつながっている。また、第2学年「いろいろな がっきの 音を さがそう」では、第1学年で経験した楽器の音色や特徴を基に、より多くの楽器を扱う題材へと進んでいく。本題材の音探しや歌に合わせて打楽器を演奏すること、聴くこと、楽器の特徴をいかして表現することなどの活動を通して、児童は音色のよさや面白さを見いだしていく。また、音色の特徴をいかした音楽づくりの活動を通して、生活場面と音色を結び付け、思いをもった音楽経験を重ねていく。児童が思いをもって表現する楽しさを味わいながら音楽経験を重ねることは、これからの児童の音楽観を広げることにつながる。そして、児童が生活の中にある様々な音や音楽と、より豊かに関わるよう題材を構成していく。

*佐賀大学教育学部附属小学校

本学級の児童は、音楽活動に意欲的な児童が多く、体を揺らしながら歌ったり、音楽に合わせて打楽器を演奏したりする楽しさを感じている。幼児期より童謡やわらべうた、歌遊びを経験している児童もあり、休み時間に教師や友達と歌ったり手遊びや音遊びをしたりする様子が見受けられる。9月に行った意識調査では、「おんがくは好きですか」という問いに対し、「だいすき・すき」と答えた児童が35名中33名であった。その理由には、「たのしいから」「すっきりするから」「楽器がすきだから」等と回答する児童がいたことから、音楽活動や音遊びを感覚的に楽しんでいる。また、「あまり好きではない」と回答した児童は、のびのびと活動できておらず、音楽のよさや面白さに気付いていない様相である。そこで本題材では、生活場面と音色を結びつけることで、いろいろな楽器の音色を身近に感じ親しみをもつことができるようにする。音色の違いや特徴に着目して、音や音楽が自分や生活に意味あるものとして気付くことができるよう展開することが必要である。

指導にあたっては、音探し、器楽演奏、鑑賞、音楽づくりによる活動を展開する。まず、第1・2時目では、打楽器の音探しを行う。学校の中で聞こえる音に着目した前題材を振り返り、見付けた音を声で表現する声遊びをした後、トライアングルの様々な鳴らし方を試す。奏法による音色の違いを児童の言葉（オノマトペ等）で捉えて音色を楽しみ、すずやタンブリンでも同様に進めていく。次に、第3・4時目では、様々な打楽器から選んで歌に合わせて演奏し、第5・6時目では、時計をモチーフにした教材曲を打楽器の音色に着目しながら聴く活動を行う。終末には、音楽から様子を想像したり物語をつくったりしながら聴き、音楽に使われている音色を個々のイメージとつなげ次時へ向かう。第7（本時）・8時目では、楽器の音色をいかした音楽づくりを行う。学校や生活の中にある風景を提示して、どのような音がしていそうか想像させる。その際、オノマトペや合いそうな楽器を問い、本時の主な活動に入っていく。主な活動は、風景から一つを選択して、聴こえそうな音を想像しオノマトペで表し、打楽器の鳴らし方を工夫して音楽を作る。次時では、音物語発表会を行う。音楽づくりの活動を通して、思いをもって演奏することで、ただ鳴らしていたものが、楽器の音色の特徴をいかし表現が豊かになっていく。そして、友達と交流する中で共有感を味わい、音楽のよさや面白さに気付くよう展開したい。

（２）教材曲について

教材曲名・作者等	楽曲について・期待できる学び
「さがしてみよう ならしてみよう」 安西薫 作詞 長谷川匡俊 作曲	<ul style="list-style-type: none"> ・1～4番の最後にくじゅうにならすの部分があり、様々な楽器の音を試すことができる。A4＋B8の一部形式。 ・歌詞を手掛かりに、「やさしい」「げんきな」「ふしぎな」「きれいな」「いろいろな」などの歌詞に合う歌い方を工夫したり、音色や鳴らし方を見付けたりすることができる。 ・自分のお気に入りの音色やリズムを試しながら見付けることができる。
「シンコペーテッド クロック」 アンダソン作曲	<ul style="list-style-type: none"> ・時折、変則的に時を刻む時計の様子をユーモラスに描かれた作品。 ABAの複合三部形式。 ・Aの部分をはば通して演奏しているウッドブロックの響きに着目したり、Bの部分のベルを模しているトライアングルの音色の特徴や音の出し方の違いを感じ取ったりすることにより、楽器の音色と演奏の仕方との関わりへの興味・関心を高めることができる。 ・オーケストラによるいろいろな楽器の音色を楽しみながら聴くことができる。また、最後の部分はあたかも時計がバラバラに壊れてしまったかのような面白さや物語性を感じることができる。

(3) 題材の目標と評価規準

題材の目標

- ・音色やリズムなどと曲想との関わりに気付き、楽器の音色に気を付けて演奏できるようにする。
- ・歌詞の表す様子、音色やリズムと曲想との関わりから、曲想に合った表現の仕方について思いをもったり、曲全体を味わって聴いたりできるようにする。
- ・打楽器の音色のよさや面白さを感じ取って、互いの音や演奏の仕方を比べながら表現したり、曲全体を味わって聴いたりする学習に楽しんで取り組もうとすることができるようにする。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>【知】 打楽器の音の特徴について、それらが生み出す面白さなどに関わらせて気付いている。</p> <p>【知】 曲想と打楽器の音色やリズムなどの特徴との関わりについて気付いている。</p> <p>【技】 打楽器の音色やリズムなどをいかしながら即興的に音を選んだりつなげたりして表現する技能を身に付けて音楽をつくっている。</p>	<p>【思】 音色やリズムを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聞き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、様子を表す曲の楽しさを見だし、曲全体を味わって聴いている。</p> <p>【思】 打楽器の音色やリズムを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聞き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、音遊びを通して、音楽づくりの発想を得ている。</p>	<p>【主】 打楽器の音色やリズムに興味をもち、楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりや鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

(4) 題材の指導計画（全8時間 本時7／8時間目）

次	時	主な学習活動（○）	指導上の留意点（・）	評価規準（◆）【観点】
一	1	○学校の中にある音を見付けて、声遊びをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・前題材を振り返り、学校の中の音を確認した後、音の感じをオノマトペで表し、音色を言葉で表すようにする。 ・トライアングルの持ち方を確認して、いろいろな音色を見付けるよう促す。 ・楽器名、鳴らし方、音の感じ（オノマトペ）をワークシートに記録するよう促し、材質による音色の違いにも気付くようにする。 	<p>◆打楽器の音色と演奏の仕方との関わりに気付き、思いをもった表現にするために必要な、音色に気を付けて打楽器を演奏する技能を身に付けて演奏している。</p> <p>【知・技】</p> <p>◆打楽器の音色や音の強さ、高さ、響きの長さを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、音の出し方を工夫し、どのような音にするかについて思いをもっている。</p> <p>【思・判・表】</p>
	2	○トライアングルの鳴らし方を試す。 ○トライアングルと同様に、すずやタンブリンで音探しをする。		
	3	○曲全体の感じをつかみ、旋律を歌う。 ○好きな楽器を選んで、音楽に合わせて演奏する。	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の中にある「やさしい」や「げんきな」を取り上げ、歌詞に合った歌い方をしよう声掛けをする。 ・歌の時と同様、歌詞の言葉を手掛かりに、それぞれの鳴らし方を工夫するよう促す。 	<p>◆打楽器の音色に興味・関心をもち、互いの音や演奏の仕方を比べながら表現する学習に楽しんで取り組もうとしている。</p> <p>【主】</p>

	4	<p>○前時に決めた打楽器でリズム打ちをする。</p> <p>○歌に合わせて、グループごとに発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習を振り返る。 ・学級全員が輪になって、リレー形式で発表する場を設定する。 ・いろいろな音色やリズムを試しながら学習することができるよう、友達の表現もやってみてよいことを伝える。 ・発表したグループの工夫を全体で取り上げ、音色とリズムの観点から整理し共有する。 	<p>◆打楽器の音色をいかして、リズムや拍との関わりについて考え、音の出し方やリズムを工夫し、どのように演奏するかについて思いをもっている。</p> <p>【思・判・表】</p> <p>◆音色やリズム、歌詞の表す様子と曲想との関わりに気づき、声や楽器の音色に気を付けて表現する技能を身に付けて歌ったり演奏したりしている。</p> <p>【知・技】</p>
二	5	<p>○楽器の音色やリズムに気を付けながら聴く。</p> <p>○楽器の名前を知る。</p> <p>○音色を感じ取りながら、体を動かして聴く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時計がどのようになっていくか想像しながら聴くよう促す。 ・まず音色だけを聴き、次にどのように鳴らしているか考え、鳴らし方を確認する。 ・楽器それぞれのリズムを、体を動かしながら表現する場を設定する。 	<p>◆打楽器の音色やリズムと曲想との関わりを理解し、音楽を味わいながら聴く学習に取り組んでいる。【知】</p>
	6	<p>○楽器の音色やリズムに注目して聴く。</p> <p>○曲の楽しさや演奏のよさについて発表し、物語を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・音色やリズムの面白さについて取り上げ、学級全体で曲の面白さを共有する。 ・挿絵を使ったワークシートに様子を書き込み、時計の様子や物語を想像しながら聴くようにする。 	<p>◆打楽器の音色、リズムや旋律と曲想との関わりから、曲や演奏のよさや面白さを見出し、曲全体を味わって聴いている。【思・判・表】</p>
三	7 本時	<p>○風景を見て、どんな様子か考える。</p> <p>○風景を選んで、その様子を楽器で表す。</p> <p>○発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や生活の一場面を提示して、どんな様子か問いかける。その際、どんな音が聴こえてきそうか問い、オノマトペでまとめて次の活動につなげる。 ・想像した様子や音をオノマトペで表し、楽器を選んで試してみるよう促す。 	<p>◆打楽器の音色やリズムと想像した様子や音とを結び付けながら考え、音の出し方やリズムを工夫し、どのように演奏するかについて思いをもっている。</p> <p>【思・判・表】</p>
	8	<p>○楽器の音色を楽しむ。</p> <p>○音物語をつくり、発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・何の音？どんな音？ゲームをして、様々な打楽器や鳴らし方を確認する。 ・前時の音づくりを友達とつなげながら音物語をつくり、発表できるようにする。 	<p>◆打楽器の音色に興味・関心をもち、互いの音や演奏の仕方を比べながら音物語をつくる学習に楽しんで取り組もうとしている。</p> <p>【主】</p>

(5) 本時の指導 (7/8)

指導目標

打楽器の音色と想像した様子を結び付けながら考え、音の出し方を工夫し、どのように演奏するかについて思いをもつことができるようにする。

評価規準

イ 打楽器の音色と想像した様子を結び付けながら考え、音の出し方を工夫し、どのように演奏するかについて思いをもっている。 【思・判・表】

展開

学習活動と児童の反応 (「」)	教師の働きかけと形成的評価 (◆)
<p>1 音あてクイズや声遊びをする。 (7分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この音はチーンと音がしたから、トライアングルじゃないかな。 ・書く音は「カッカッカッ」だったね。 ・チャイムの音は「キンコンカンコン」です。 ・走る音は「タッタッタッタッ」です。 	<p>1-(1) 音色に着目するために本時で用いる打楽器の音あてクイズをしたり、生活の中にある音に着目するために声遊び（まねっこ、かわりばんこ等）をしたりする。</p> <p>1-(2) 学校の音の声遊びをした後、その風景を提示し、声ではなく楽器で表したらどうなるか問い、本時の活動へ向かう。</p>
<p>2 風景をみて、音を想像する。 (8分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よのそらきれいだなあ。トライアングルを使ってみようかな。 ・そうじの時間は、ガタガタ机を運ぶ音がしそう。 ・この風景は、風が「ザァザァ」と聞こえそうだな。 ・走っている人がいるから「タッタッタッタッ」と音がしていると思うよ。 	<p>2-(1) 風景から気付いたことを黒板や拡大風景に整理し、音の感じをオノマトペで表しながら次の活動につなげる。</p> <p>2-(2) ワークシートを配布し、風景に注目した箇所をマークしてオノマトペで書き込むことで、場面と音が結びつくよう促す。</p>
<p>3 風景を選び、楽器で音を作る。 (15分)</p> <p>(1) 自分の作品を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・走っている様子は、カスタネットを使おうかな。 ・どんどん速く走っているから、速く叩いてみよう。 ・風で花が気持ちよさそうだから、すずでサラサラサラと鳴らしてみよう。 ・ほうきで掃く音をギロで表してみようかな。 	<p>3-(1) 自分のイメージと合いそうな楽器を試しながら活動できるよう、楽器ごとの場を設定する。</p>
<p>(2) ペアで作品を確かめ合ったり、組み合わせたりして作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タンブリンの「タンタンタン」が、走っている様子に合っているね。 ・風が吹いているしている様子を、すずとトライアングルでやってみない？ 	<p>◆ 打楽器の音色と想像した様子を結び付けながら考え、音の出し方を工夫しているか。 (児童の様子) 【思・判・表】</p> <p>○ 打楽器の音色と想像した様子と結び付けて考え、音の出し方を工夫している。 → 想像した様子を打楽器で表現できていない児童には、オノマトペにぴったりの打楽器の音色を問いかける。</p>
<p>4 発表する。 (10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇さんの音、様子と合ってて面白いなあ。 ・私は風の音を表したけど、一緒に演奏したらもっと良くなりそう。 	<p>3-(2) 楽器の音色とイメージを結び付けることができるよう、適時児童の作品を紹介する。</p> <p>3-(3) 打楽器の音色を確かめたり、組み合わせせたりできるよう、ペア活動の場を設定する。</p>
<p>5 本時を振り返り、次時の活動を知る。 (5分)</p>	<p>4 風景ごとに作品を発表したり、クイズ形式で音から風景を考えたりして、児童の打楽器の音色の工夫を共有する。</p> <p>5 次時では風景ごとに音物語をつくり発表することを知らせ、次時への見通しをもつ。</p>

(6) 実践後の考察

柱1 生活や社会の中の音や音楽とつなげる指導の工夫についての考察

本題材では、柱1の中でも、「生活や社会の中の音や音楽を教材化」に重点を置き、実践を行った。まず、児童の生活の中にある場面を切り取った写真やイラスト5枚を提示し、聞こえてきそうな音を想像した。(図1参照)次に、各場面をオノマトペ等の言葉で表した後、楽器で表現する活動を行った。そして、全体で児童の表現を共有し、授業の終末へと向かった。生活の中の記憶に残っている各場面を教材として扱っているため、聞こえてきそうな音も想像

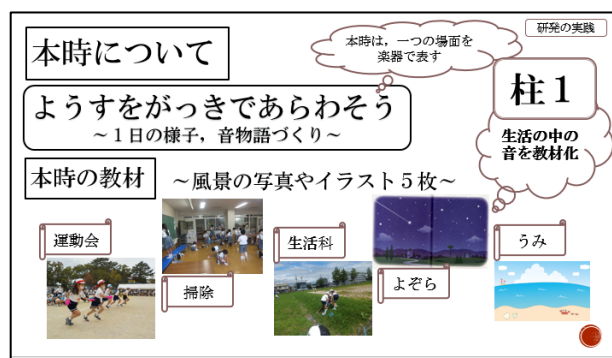


図1 本題材における生活の中の音の教材化

しやすく、多くの児童が様々な音をオノマトペでワークシートにメモしたり、つぶやいたりすることができていた。これは、主体的に取り組む児童が多かった一つの要因とも考えられる。また、休み時間などに、身の回りにある音と楽器の音色を結びつける児童も見られた。掃除の時間では「机を動かすと、こんな音がするんだ。」「先生、箒を掃く音は、マラカスの音みたい」と教師に伝える児童もいた。このことから、児童は生活の中の音に対して意識的に捉え、興味や関心が高まったと考えられる。

柱2 知覚と感受の関連付けのための工夫についての考察

本時において、知覚と感受の関連付けのための工夫は、「試行錯誤し、表現できる場の設定」として、楽器の工夫と場の設置の工夫が挙げられる。一つ目の楽器の工夫としては、児童が様々な楽器の音色を試しながら、表現できていた(図2図3参照)。これは、自分が想像した音と本題材で養ってきた音色に対する感覚を研ぎ澄ませ、ピッタリあう音を児童は探していたと考えられる。二つ目の場の設置の工夫として、図3のように場面ごとに拡大写真を設置し、児童同士が試行錯誤しながら表現を試すことができ、児童同士が対話できる場を設置した。その場では、自分が想像した音を児童同士が確かめ合ったり、音を重ねて新たな表現方法を発見したりする様相が見られた。これらのことから、場の工夫により、児童は知覚したことと感受したこと(楽器の種類や奏法による音色の違いと自分の想像した音)を結び付けながら活動できたと考えられる。



図2 本時における使用した楽器



図3 本時における場の設置

さらには、本時の終末で、同じ場面で同じ楽器を使用しても表したもののや奏法が違う児童の表現を取り上げた時、それぞれ児童によって表したい音や表現について気付いていた。多様性を認め合う時間ともなった(図4)。

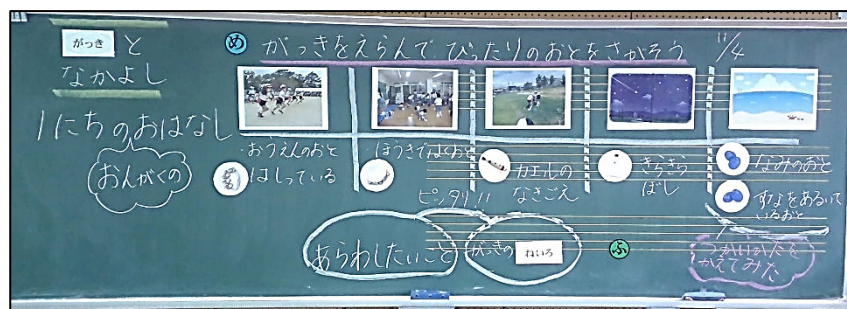


図4 本時の板書

2. 実践②小学校第3学年（35名）、7月実践

題材名 「くりかえしを楽しもう」

(1) 題材の構想

本題材は、第2学年の「はくのとまりをかんじとろう」や「リズムをかさねて楽しもう」、そして次学年の「いろいろなリズムを感じ取ろう」の学習に関連している。互いの音を聴き合いながら演奏することや、反復や変化を用いてまとまりのあるリズムをつくることを通して、拍の流れやリズムに対する感覚、演奏表現に必要な基礎的な能力を養うことをねらいとしている。そこで軽快な2拍子の「ゆかいな木きん」や、既習曲「春の小川」「山のポルカ」「歌えバンバン」などを扱う。「ゆかいな木きん」は主旋律が8分音符の軽快なリズムで構成されているとともに、似た音型の反復でできていることから、拍にのって楽しく歌ったり演奏したりしやすい。また、無理なく合奏や歌唱に取り組むことができる曲である。既習曲の反復や変化と関連付けながらそれらの仕組みを楽しみ、リズムづくりへとつなげていく。自分のリズムと友達のリズムをつなげて一つのリズムにしたり、模倣したりすることで、拍に対する感覚を一層伸ばしながら、協働して表現する楽しさを味わうことができる構成とする。

本学級は、歌ったり楽器を演奏したりする学習に意欲的に取り組む児童が多い。5月に行った意識調査によると、友達と一緒に歌ったり、演奏したりすることを楽しんでいる児童が35名中28名である。また、児童はこれまで、帯活動として拍にのってポーズを決める遊びや、友達のリズムを模倣して打つリズム遊びに多く取り組んでいる。このように遊びの中で楽しみながら培ってきたリズム感覚を、協働的な音楽活動を通してより一層伸ばしながら、音楽の仕組みについて知り、音楽のよさや面白さに注目できるようにしたい。

第一次では拍の流れにのって班や学級全体で一体感のある演奏をすることを目指し、学習を展開する。拍の流れにのって演奏することや、自分のパートの役割を知り、互いの音を聴き合いながら演奏する大切さに気付く経験をすることで今後の表現活動へつなげていきたい。本時では、“あっちいってこんこんこん”“こっちきてこんこんこん”の反復した旋律をどのように演奏するか、強弱やパート分けなどの演奏の工夫を考える活動を設定し、反復や変化によるよさや面白さを味わいながら合奏に取り組むようにする。さらに既習曲を反復や変化の視点で振り返ることで、今後出会う曲についても、児童が反復や変化についての気付きを持てるようにしたい。第二次では、反復と変化が生み出すまとまりのあるリズムについて知り、それらを生かしたリズムをつくる活動を行う。そして、友達とつなげたり模倣したりすることで、拍の流れに対する感覚を育てていく。また友達のつくった様々なリズムを聴き合ったり、模倣して演奏したりすることで、リズムの違いの面白さや表現の多様性を感じ取らせたい。

(2) 教材曲について

ゆかいな木きん 小林純一作詞／作曲者不明 ／原由多加編曲	<ul style="list-style-type: none">・ 4分の2拍子で拍の流れにのりやすく、8分音符の軽快なリズムで構成されている。・ 動物の様子や気持ちを想像できるような歌詞に楽しさがある。・ 副次的な旋律であるリコーダーのパートは既習の音のみ、低音パートはドとソの2つの音でどちらも簡単なリズムとなっている。・ 合わせて演奏した際に各パートの旋律を感じ取りやすく、合奏曲として易しいものである。
------------------------------------	--

(3) 題材の目標

- ・拍子やリズムの特徴などと曲想との関わりに気付き、拍にのって表現する技能や、反復や変化を用いてまとまりのあるリズムをつくる技能を身に付ける。【知・技】
- ・拍子やリズム、旋律の特徴を捉え、そのよさや面白さを味わって聴いたり、どのように表現するか、どのようにまとまりを意識したリズムをつくるかについて思いや意図をもったりする。【思・判・表】
- ・拍子やリズムの特徴が生み出すよさや面白さを感じ取って聴いたり、それらを生かして表現したり、友達と協働してまとまりのあるリズムをつくったりする学習に進んで取り組む。【主】

(4) 題材計画と評価規準（全6時間）

次	時	○主な学習活動 (音楽を形づくっている要素)	主な評価規準（◆）【観点】
第一次	1	○曲の特徴を感じ取りながら聴く。 (リズム, 拍, 反復, 変化)	◆拍子やリズム, 旋律と曲想との関わりに気付いている。 【知】
	2	○拍を感じ取りながら歌ったり演奏したりする。(リズム, 拍) ○8分音符「こざるが」や「ゆかいな」のリズムの反復, 3段目の旋律の反復に気付く。(反復, 変化) ○主旋律, リコーダー, 低音部分のリズムのちがいを感知取って, 演奏する。(音色, 拍)	◆旋律の特徴に気付き, 2拍子の拍にのりながら互いの音を聴いて, 友達と音を合わせて演奏する技能を身に付けて演奏している。 【知・技】
	3 (本時)	○3段目の旋律の反復について, 演奏の工夫を考える。(反復, 変化, 音色) ○既習曲や知っている曲の中から反復を見つける。(反復, 変化)	◆旋律の特徴を捉えた表現を工夫し, どのように演奏するかについて, 思いや意図をもっている。【思・判・表】
	4	○互いの音を聴き合いながら, 拍にのって演奏を楽しむ。 (拍, 旋律, 音の重なり)	◆拍子やリズム, 旋律と曲想との関わりに興味・関心をもち, 互いの音を聴き合いながら演奏する学習に進んで取り組もうとしている。【主】
第二次	5	○まとまりのあるリズムの仕組みを使って, 4小節のリズムをつくる。(リズム, 反復, 変化)	◆思いや意図を表すために必要な技能を身につけて演奏している。 【技】
	6	○友達とリズムをつなげて, 音楽をつくる。 (リズム, 拍, 反復, 変化)	◆リズムと反復と変化を聴き取り, それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら, 4分音符と8分音符のリズムの組み合わせを工夫し, どのように反復と変化を生かしたまとまりのあるリズムをつくるかについて, 思いや意図をもっている。【思・判・表】 ◆リズムのつなげ方の特徴に気付き, 反復や変化を生かしてまとまりのあるリズムをつくる技能を身に付けて音楽をつくっている。【知・技】

(5) 本時の指導（3／6）

指導目標

反復や変化が生み出すよさや面白さを感じ取り、どのように演奏するかについて思いや意図をもつことができるようにする。

本時の評価規準

反復や変化が生み出すよさや面白さを感じ取り、聴き取ったことと感知取ったことの関わりについて考え、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。【思考・判断・表現】

本時の展開

学習活動と児童の発言や反応 ([])	教師の意図や働きかけ、形成的評価 (◆)
1 本時の活動を知る。(5分)	1 曲想と音楽の仕組みとを関連づけ、本時の活動を確 認する。
演奏の仕方を工夫してくり返しを楽しもう	
2 演奏の仕方を工夫する。(10分) (1) 個人で考える。 (2) 話し合う。	2-(1) どのように演奏するかについて、「もっと楽しい 演奏にするため」という視点を与える。 2-(2) 演奏の工夫やその理由を問い、思いや意図につい て価値付ける。
<ul style="list-style-type: none"> ・くり返しだけど、大きさを変えて楽しくしたいな。 ・1回目と2回目で人数を変えよう。 ・あっちに行く感じとこっちに行く感じにしたいな。 鍵盤ハーモニカと木琴で分かれるのはどうかな。	◆どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。 (ワークシート・発言)【思・判・表】 B どのように演奏するかについて思いや意図をもち、強 弱や音色などの演奏の仕方を工夫している。 C 演奏の仕方の工夫が思いつかない。または思いや意図 と演奏の工夫が結びつかない。 →友達の見解を聞くよう促し、やってみたい演奏の工夫を 問う。
3 工夫を共有し、合奏する。(15分) <ul style="list-style-type: none"> ・息を合わせて鳴らそう。 ・鍵盤ハーモニカと木琴で分かれよう。 ・もっとはねている感じで演奏したいな。 ・近いところと遠いところで鳴らしているみたい だね。 ・やってみたらおもしろいな。 ・〇〇さんは私と同じ工夫の仕方だ。 	3-(1) 演奏の工夫を全体で共有し、合奏してどのよう に感じたかを問う。 3-(2) 互いの音を聴き合いながら、拍にのって演奏して いる姿を称賛する。 3-(3) 思いや意図を明確にするために、自分のお気に入り の演奏の工夫を選ぶよう促す。
4 身近な音楽の反復や変化を見つける。(10分) <ul style="list-style-type: none"> ・全部にくり返しがあるよ。 ・リズムは同じだけど、音の高さが違うね。 ・歌えバンバンにはくり返しはないんじゃない？ ・いや、この部分だけ小さいくり返しがあるよ。 ・もう一回でてきているよ。 	4-(1) 既習曲や児童が提案した曲について、旋律に着目 できるように主な旋律をピアノで演奏したり、旋律のリ ズムを一緒に手拍子したりする。 4-(2) 反復や変化という特徴と曲想との結びつきについ て板書で整理する。
5 本時を振り返る。(5分) <ul style="list-style-type: none"> ・音の大きさを変えて繰り返すのが面白かったで す。 ・今までに習った曲にもこんなにくり返しがある と思いませんでした。 ・くり返しがあるのは同じでも、演奏の仕方であ る感じがなるとわかりました。 	5 リズムが反復している部分を強弱や楽器の音色で変 化させることで、どのように感じたかを問う。

(6) 実践後の考察

柱1 生活や社会の中の音や音楽とつなげる指導の工夫についての考察

本題材では、柱1の指導の工夫の中でも、「生活や社会と関連付ける場面の設定」を第3時に位置付けた。合奏をよりよくするために反復の部分を工夫して演奏することでその面白さを実感するとともに、自分達が知っている曲に反復を見つける活動を行った。学習して得た知識を学校の中だけで留まらせず、日常にもつなげることで、音楽に豊かに関わっていく態度を育てることをねらいとしたのである。

生活の音楽に目を向ける第一歩として、既習曲や低学年から歌ってきた「歌はともだち(教育芸術社発行)」に掲載されている曲の中から反復を見つけていった。知っている曲から問うことで、改めて「くり返しってなんだろう?」という発言があった。

児童は楽譜を見ながら既習曲について考え、反復を見つけるとともに、リズムのみの反復にも気付いていた(次頁図5)。題材の中で獲得した音楽を構成する要素(本題材では反復)について、音楽の

かんでいる児童がいることは考えられるが、それを音楽の仕組みとしては捉えていなかった。そのため本題材で演奏したり既習曲から探したり、音楽づくりをしたりすることで、音楽の仕組みとして理解できるよう促した。2時目では、音楽を身体的に表現したり、視覚的に音楽を捉えたりする手立てを設定した。反復する部分の楽譜を重ねて同じリズム、旋律であることを確かめることで、視覚的にも反復であることをつかんでいった（前頁図9）。歌ったり手拍子をしたりして身体的につかむと同時に、楽譜で確認することのよさにもふれていった。

③試行錯誤し、表現できる場の設定について

試行錯誤し表現できる場を、3時目に設定した。反復する部分をよりよくするためにはどのような演奏の工夫があるか、グループや全体での対話と実際に表現する活動とをくり返し行なった。

演奏をどう工夫するか、思いや意図をもつことが難しい児童がいることは想定される。そのため、班の友達の意見を聞いて「そのような演奏の仕方もあるのか。」「やってみたらどんな音色になるかな。」と考えを広げ、合奏への意欲を高めることをねらいとした。合奏を自分たちで作り上げるという意識が高まり、他者と演奏を合わせることのよさや面白さを味わうことができていた（図10）。

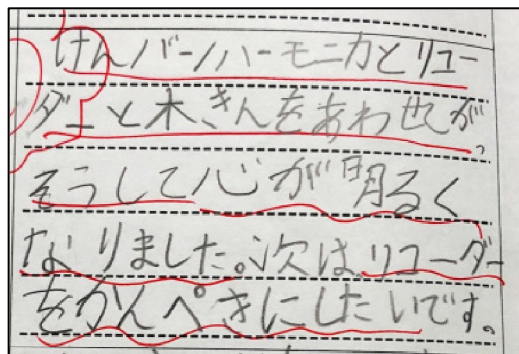


図10 児童のワークシート

また、児童のアイディアを取り上げながら全体で演奏してみる、という試行錯誤の場を全体で設けた。強弱をつけたり、演奏する楽器が変わったりする工夫が想定されたが、個人や4人程度の班でその工夫を表すとなると、児童の演奏する技能が十分に追いついていない場合が考えられたためである。学級全体で試行錯誤することで、演奏の技能面に対する児童の不安を取り除き、思いや意図を大切にできたと考える。強弱や楽器の音色を変化させて工夫したことによりどのように感じるかを問い直し、その工夫の価値づけを行った。そうすることで最終的に自分が「ゆかいな木きん」を反復の面白さをどのように演奏したいか思いや意図をもつことができ、演奏の技能を高めたいという意欲の向上にもつながった。

III まとめ

1. 成果

- 生活や社会の中の音や音楽とつなげる指導の工夫における「生活の中の音や音楽を教材化」については、低学年児童において身近に感じる題材を選定したため、児童は意欲的に活動に取り組み主体的な学びとなった。また、授業外の学校生活の中でも本題材で感じたことを思い出し話題にする児童もいたことから、生活の中の音に対して意識的に捉え、学びを深めることができていたと考えられる。
- 題材の途中に生活や社会の音や音楽と関連付ける場面の設定をすることで、その題材で主に獲得したい音楽を構成する要素への理解が深まった。それが曲自体のよさや面白さ、美しさを味わうことにつながったと考える。

2. 展望

- 「生活の中の音や音楽を教材化」については、児童は興味・関心が高まるが、題材間のつながりやカリキュラム上で効果的な学びとなるよう精査、検討が必要である。
- どの手立てにおいても、音楽のよさや面白さや美しさを追究するような児童の姿をめざす研究において、効果的であったのかをチェックする児童の姿を明確にし、有効性を語る必要がある。